

チーム・ティーチングにおける「読むこと」の指導について

足利市立西中学校 英語科

1. はじめに

足利市に米人の英語科指導主事助手を迎え入れてから3年目になる。そして英語科の研究テーマも昨年までの「聞くこと話すこと」の指導から「読むこと」の指導に重点をおいたものになった。MEFとの授業は、聞くこと話すことの訓練には絶好のチャンスであり指導もしやすかったが、「読むこと」の指導にチーム・ティーチングを生かすにはどのような言語活動を行わせれば効果的なのだろうか。

英語は言語であり、言語は文化を背負っている。英語を学ぶには英語社会の文化を身につけたMEFの助力は効果的である。4領域中特に「読むこと」の指導をする時に単に発音その他の技能的なことだけでなく、自己表現やコミュニケーション法のちがいがい等、英語文化もチーム・ティーチングで学習させることを研究することにした。

2 学習指導要領の「読むこと」の確認と到達目標

現行の学習指導要領は言語活動の基礎学力の養成を重視し、事柄の概要や要点をとらえながら理解し、表現する能力の達成を目標にしている。そして「読むこと」のねらいを要約すると次のようになる。

第1学年・・・簡単な事柄について読む

第2学年・・・事柄の概要をとらえながら読む

第3学年・・・事柄の要点をとらえながら読む

更に「読むこと」の領域の学年別到達目標は次のように示されている。

到達目標	学 年		
	1 年	2 年	3 年
(1) 文字やつづりを正しく読むことができる。	◎	○	○
(2) 句読法について正しい知識をもてる。	◎	○	○
(3) 文を正しく音読できる。	◎	◎	○
(4) 語句などの意味を、文脈に即して考えることができる。	◎	◎	○
(5) 文構造について正確な知識をもつ。	○	◎	○
(6) こまかい文意までくみとれる。	○	○	◎
(7) パラグラフの大意を把握できる。	○	○	◎
(8) やさしい読みものを連続できる。	○	○	◎

「読むこと」の目標達成のためには、適切な言語活動を行わせる必要があるが、本校ではその言語活動の各学年共通の指導事項を次のようにまとめ指導計画をたてている。

領域	言語活動		目標			
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
	指導事項	基本的指導事項	簡単な事柄	事柄の概要	事柄の要点	
読 む こ と	1 はっきりした発音で正しく音読する。	(1) 明瞭な発音で読む。 (2) 適切な声の大きさで読む。 (3) 正しい発音で読む。 (4) 適当な速さで音読する。 (5) 正しいアクセント・抑揚に注意して、リズムカルに音読する。	◎ ◎ ○ ○ ○	○ ○ ◎ ◎ ◎	○ ○ ○ ○ ◎	
	2 文の内容を考えながら、音読したり、黙読したりする。	(1) 段落ごとの内容を、考えながら音読する。 (2) 段落ごとの内容を、考えながら黙読する。 (3) 文章の主題や要旨を、掴みながら音読する。 (4) 文章の主題や要旨を、掴みながら黙読する。 (5) 場面や情景を、思いながら音読したり、黙読したりする。	◎ ○ ○ ○ ◎	○ ◎ ◎ ○ ○	○ ○ ◎ ○ ◎	
	3 文の内容を理解して内容が表現できるように音読する。	(1) 書いてあることの意味がよく表れるよう音読する。 (2) 聞き手に内容がよく理解できるように、音読する。 (3) 内容に応じて、感情をこめて音読する。 (4) 内容が表現されるように正しい音調で音読する。 (5) 時間的な変化、順序、場面がわかるように音読する。	◎ ○ ○ ◎ ○	○ ◎ ○ ○ ◎	○ ○ ◎ ○ ◎	
	4 と書かれている内容を全体としてまとめ読みとる。	(1) 読みとった事柄について、感情や意見をもつこと。 (2) 何について書かれているか読みとる。 (3) 事柄の粗筋をとらえて読む。 (4) 事柄の要点をとらえられるような読みとりをする。	○ ◎ ◎ ○	◎ ○ ◎ ○	○ ○ ○ ◎	

	(5) 書いてあることの全体を要約したり, 目的に そって必要な事柄を読みとる。	○	○	◎
--	---	---	---	---

3. 実践例

1. 「指導事項3」を重視した実践例

英語科学習指導案

指導者 金子 雅典・MEF Gretchen Lammers

- (1) 日時：昭和60年11月12日（火）第5校時
- (2) クラス：2年4組
- (3) 教材：The New Crown English Series, Book 2 Lesson 6
- (4) 「読むこと」の単元指導

Lesson 6 では不定詞及びWhy～?, Because～. をとりあげているが, 特に「読むこと」の指導においては, 読み方によって不定詞の表わす意味や目的がより明確になること, またWhy～?, Because～. については読み手の人格, 状況, 感情を表現できる面白さを指導したい。単元最後の対話のページでは読み方によって内容が全く異なってくることを感じとらせ, 「指導事項3-(2)」について十分指導したい。

(5) 本時の指導

ア 本時の目標

- (ア) 言語活動：読み方によって自分の感情を二通りで表現でき, また相手の感情を察することができるようにする。
- (イ) 言語材料：補助資料のスキットとWhy～? Because～. の文。

イ 同和教育の視点

できるだけ多くの生徒に発言, 発表できる場を作ってやり, 誰もが「できた」「わかった」という気持が持てるように授業を進めていきたい。またひとりひとりの発言を尊重してやり, 友達の発表を大切に, 互いに協力しながら積極的に学習させたい。

(6) 授業展開

区分	活動内容	H S	R	W	指導上の留意点	教材・教具
あいさつ	・生徒同士, 1対1であいさつ・質問をする。 (班で1人, 計6人)	○			・大きな声で, 相手の方を見てはっきりと言わせる。	
復習 (1) 読み	[1] P. 53 5行目の Mayの心情を考える。				・思ったことを, 何でも言わせる。	
	[2] Model Reading (P. 53 4～5行目) MEF・・・May 指導者・・・Eiji	○			・よく聞かせる。	
	[3] Pair Reading		○		・大きな声で読ませる。	

(2) 宿題	MEFの質問に答える。 “Why do you come to school?”	○			<ul style="list-style-type: none"> • MEFを見て、質問に答えさせる。 • 恥ずかしがらずに言うよう指導する。 	
新教材 の提示	[1] 対話を黒板に掲示					対話を書いた模造紙
	[2] Role Play ・同じせりふで、2つの場面(AとB)を演じる。 MEF・・・May, 指導者・・・Jack				<ul style="list-style-type: none"> • 演じる前に、2人がどういふ気持ちで言っているか、2人の関係はどうなのかを考えて聞かせる。 	変装に使う物
	[3] 場面AとBの違い、 MayとJackの気持ち を考えて発表する。				<ul style="list-style-type: none"> • 思ったことを何でも言わせる。 	
	[4] プリントを配布して、 新しい語句を覚える。 (glad/meet/get along)		○		<ul style="list-style-type: none"> • 自分の予想と合っていたかどうか生徒に確認する。 • 内容を理解させる。 	プリントカード
	[5] もう一度Role Play をする。	○			<ul style="list-style-type: none"> • プリントではなく、前にはってある紙を見させる。 	
	[6] MEFのあとについて、 読む。		○		<ul style="list-style-type: none"> • MEFの言いかたをよく聞き、まねさせる。 	
	[7] 隣り同士で、練習する。 (男子・・・Jack, 女子 ・・・May)			○	<ul style="list-style-type: none"> • プリントを見なくても、言えるようになるまで、練習させる。 • 机間巡視して、助言・指導する。 	
	[8] 前に出て、Mayと Jackを演じる。	○	○		<ul style="list-style-type: none"> • 恥ずかしがらずに、演じさせる。 • 場面の違いがわかるように、演じさせる。 	
まとめ	[1] Model Reading (P. 53)	○			<ul style="list-style-type: none"> • 特に、感情の入れかたに注目させて聞かせる。 	
	[2] MEFのあとについて 読む。		○		<ul style="list-style-type: none"> • 感情を込めて生き生きと読むよう指導する。 	
	[3] Pair Reading	○	○		<ul style="list-style-type: none"> • 感情を込めて読ませる。 	
	[4] 宿題と次時の予告を聞く。					

(8) 評価

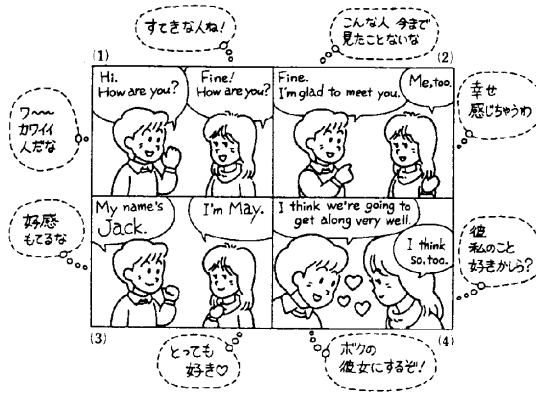
ア 場面AとBの感情のちがいを読み分けられたか。

イ 友達の読み方を聞いて、その人の感情が理解できたか。

ウ 教科書P・53を感情をこめて読めたか。自分を正しく表現しわかってもらえたか。

<補助資料>

次のまんがに示された場面において、日本語で書かれた気持ちを表すように会話を進めなさい。



(9) 授業反省

チーム・ティーチングの授業では生徒は非常に積極的になる。本時の場合も生徒達は喜んで参加し、演技力もあった。が、中にはまず正確に読むことに精一杯で感情表現にまで至らなかった生徒達がいる。日頃からもっと多く読ませる機会を多くしなければならぬことを痛感した。またMEFとの対話では感情表現も自然にできるが、友達同志だとうまくいかない例もあった。英語を真の言語として指導するにはMEFとのチーム・ティーチングは有効な方法でありもっと多くの機会が必要である。

本時の指導で補助資料を使用した事は効果的であった。英語を生きた言語として学習させるためにも、教科書をより深く理解させるためにも、資料教材の研究、チーム・ティーチングのあり方など、さらに研究をすすめていきたい。

(10) 「読むこと」の指導について一考察

本年度の本校の英語科の「チーム・ティーチングにおける読むことの指導」について、こ

れまで研究してきたことを述べてみたい。

昨年同様本年も、MEFが1クラスを訪問するのは年間（年度内）に1～2回である。生徒達はこのわずかな機会を首を長くして待っている。日頃の授業がこの日のためにあるという生徒も多い。そしてMEFとの授業が終ると、次の訪問日を夢みながら学んでいる。

このわずかな機会に、特に「読むこと」の指導を効果的に行うにはどうしたらよいか。「読むこと」には4つの指導項目がある。

- ア はっきりした発音で正しく音読すること。
- イ 文の内容を考えながら音読したり黙読したりすること。
- ウ 文の内容を理解して内容が表現されるように音読すること。
- エ 書かれていることの内容を全体としてまとめて読みとること。

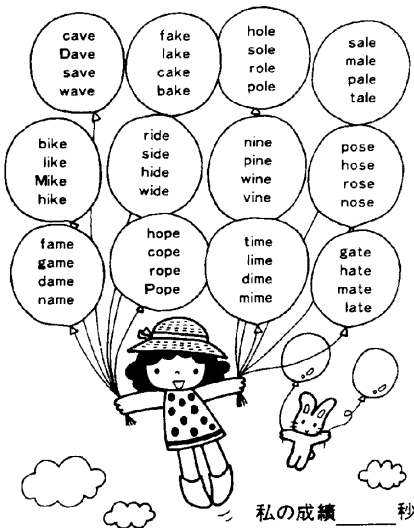
その中でティーム・ティーチングで「読むこと」の指導をするには「対話」を教材として取り上げるのが一番良い様に思われた。現在使用している教科書 The New Crownは、各課の最後はすべて対話形式になっている。しかも外国人と日本人の対話である。そうすると、「ウ 文の内容を理解して内容が表現されるように音読すること」に重点をおく授業を展開していけば良いことになる。またこの項目を達成させるためにはア・イの指導がその基礎となる。そのために次の様な指導方法を授業の中に取り入れてきた。

(7)・フラッシュ・カードを使い、繰り返し発音指導する。

- ・フォニックスの利用
- ・意味のある語群ごとに/で区切らせる。

<フォニックス>例

「アルファベット読みの母音」のファミリー語——あなたは次の単語を正しい発音で何秒で読めますか。



次の単語の中の長母音と語尾のeを書いて下さい。(答えは226ページ)

sk _ t _	r _ d _	c _ b _
f _ v _	h _ s _	t _ b _
w _ n _	r _ s _	g _ m _
t _ m _	i _ k _	c _ k _

(8)・T-Fテスト, Q and A, 日本語による質問を積極的に取り入れ、内容についての質問を与えてから読ませる。

(ウ)・文末の上昇・下降調や強勢などに注意させて英語を聞かせる。

・話し手の気持を考えさせる。

・「音読評価カード」を作り、個人読みの時に評価させる。

「音読評価カード」

date	reader	page	score
(a) 声が届いているか。	2	1	0 点
(b) リズムがあるか。	2	1	0
(c) 音が明瞭か。	2	1	0
(d) 流暢であるか。	2	1	0
(e) 感情が伝わるか。	2	1	0

(エ)・クローズ・テストを行う。

<例>

Lesson 6 (3) 2 - () No () Name ()

Aki: (1) *yóu* going to *cóme* to the *párty*?

Bob: *Yés*, I (2). Is *Míe* (3) going to *cóme*?

Aki: *Nó*, she *isn't*. She *isn't* going to *cóme*.
She's *álways* (4) on *Súnday* *afternóons*.

Bob: (5) *tíme* is the *párty* going to *stárt*?

Aki: At *hálf* *pást* (6). I'm going to *táke* a *bíg*
cáke.

Bob: I'll take some (7).

Aki: (8) *you*, *Bob*.

(1) _____ (2) _____ (3) _____ (4) _____
(5) _____ (6) _____ (7) _____ (8) _____

以上の方法を取り入れ、「読むこと」の指導をしてきた。が、これだけでは英語らしい表現をさせるには充分でないのでMEFの助力がのぞまれる。

次に、上記の方法を取り入れて行ったMEFとの授業例について述べてみたい。

TEACHING PLAN

Instructor : Masanori Kaneko

- I . Date : Friday, October 18, 1985
- II . Class : Ashikaga Nishi junior high school, 2nd grade
- III . Text : The New Crown English Series, Book 2
Lesson 6 " A Party For Miss Hori "
- IV . Allotment:
 - 1 st period.....P.38
 - 2 nd period.....P.39
 - 3 rd period.....P.40
 - 4 th period.....P.41 (this period)
 - 5 th period..... Exercise and Test
- V . Aims :
 1. General aims of this lesson
 - (1) To familiarize the pupils with the use of future tense with be going to and will
 - (2) To help the pupils learn the use of the important phrases and idiomatic expressions such as:
have a party, the day after tomorrow, go out, write to
 2. Specific aims of this period
 - (1) To catch the outline of today's material
 - (2) To read today's material correctly and fluently
 - (3) To understand the use of the following new words: believe, raw, restaurant, soon, tea, try
phrases: go out, write to
contractions: they'll, won't
- VI . Teaching Aids:

flash cards, a tape recorder, cloze test sheets, etc .
- VII . Procedure (50 minutes)
 1. Greeting (3 min.)
 2. Review (10 min.)
 - (1) Tape-listening
 - (2) Choral reading after Miss Gretchen (once)
 - (3) Cloze test
 3. Presentation of the new materials (35 min.)
 - (1) Drill of the new words, phrases and contractions (5 min.)
 - (2) Tape-listening
 - (3) Model reading by Miss Gretchen (once)
 - (4) Silent reading

- (5) T-F test (5 min.) (Please read following sentences.)
1. Miss Horii and Lily went out for dinner yesterday. (T)
 2. Miss Horii and Lily went to an American restaurant. (F)
 3. Lily liked sashimi very much. (T)
 4. Lily is going to write to her family and friends. (T)
 5. Miss Horii and Mr. Mori will not come here. (F)
- (6) Explanation of the difficult points (5 min.)
1. Will they believe you?
 2. Will Miss Horii and Mr. Mori be here soon?
- (7) Reading aloud (17 min.)
1. Choral reading after Miss Gretchen (twice)
 2. Free reading
 3. Choral reading (group)
 4. Individual reading with Miss Gretchen
 (Every student listens several students reading)
 and evaluates them.)
4. Assignment (2 min.)
 To memorize today's material for cloze test

上記の指導案中、指導展開の部分について次に述べる。◎印はMEFの参加部分である。

◎ I . あいさつ (生徒同士及び生徒とMEFのあいさつ、日常生活について簡単な対話)

II . 復習 (Lesson 6 P.40 アキとボブの対話の部分)

- ◎ (1) テープのあとで、教師とMEFの読みを聞く
- ◎ (2) MEFについて読む
- (3) クローズ・テストをし、直ちに確認

III . 新教材の提示 (P.41 リリーとアキの対話の部分)

- ◎ (1) 新出語句の説明と練習 (フラッシュ・カードを使用)
- (2) テープを聞く
- ◎ (3) MEFの範読 ((2)のテープと異なった表現をした読み方) と読み手の感情理解
- (4) 内容把握の黙読 (質問事項を与えておく)
- ◎ (5) T-Fテスト (MEFの読み)
- (6) 重要事項の説明
- ◎ (7) 読みの練習
 1. MEFのあとについて読む
 2. 自由練習 (生徒はRole playing。教師とMEFは机間巡視)
 3. 班ごとの読み
 4. 指名読 (「音読評価カード」で評価する)

IV . 次時の予告

上記の(7)「読みの練習」においては、リリーとアキという2人の人物になりきって、想定

した場面にそった読みが出来るところまで到達できればと思っている。現段階ではまだ満足のいく状態ではないが、今後も工夫を重ねていきたい。

2. 「指導事項4」を重視した実践例

英語科学習指導案

指導者 松本 英子・MEF Gretchen Lammers

- (1) 日時：昭和60年10月22日（火） 第2校時
- (2) クラス：2年7組
- (3) 教材：The New Crown English Series, Book 2, Lesson 7
- (4) 「読むこと」の単元指導

当単元は手紙文である。日本人が外国人にあてた手紙の中で、日本語の文字や俳句について書いたものである。単元最後には、「古池やかはずとびこむ水の音」の英訳があり、この朗読をいかにするかを生徒達に考えさせたい。全搬に内容の読みとりに重点をおいた指導をするが、同時に日本文化を外国人に説明する内容にはそれ相応の読み方の工夫も必要であろう。チーム・ティーチングにはうってつけの単元であり、読み方については掘り下げた指導をしたい。

(5) 本時の指導

ア 本時の目標

(ア) 言語活動：内容を正しく読みとり、書いてあることを簡単に英語で説明できるようにする。内容についてMEFの質問に答える。

(イ) 言語材料：内容についての質問に対する応答文やmustを使った平叙文に習熟させる。

イ 同和教育の視点

MEFの質問に対して、生徒ひとりひとりが失敗を恐れず積極的に英語を話す意欲をもてるように暖かい励ましと雰囲気作りに留意したい。

(6) 授業展開

生徒の活動と言語活動の領域	MEFの活動	教師の活動と留意事項
①あいさつ Good morning (H.S)	。あいさつ	。あいさつ
②教師の話聞き、本文の内容について概要をつかむ。(H)		。簡単な英語で内容を把握させる。
③新出語句の意味確認と読み練習をする。(H・S・R)	。新出語句の発音と新出語句を使った簡単な質問等	。板書、フラッシュ・カードの利用。
④本文を音読する。(H・R) 1) 範読を聞く	。本文を範読	

<p>2)MEF に続いて 1 文ずつ読む</p> <p>3)自由に練習する</p> <p>4)発表読み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 1 文読み ◦ 机度巡視して個の指導 ◦ 評価 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 机間巡視して個の指導 ◦ 手紙文なので差出人サチコと受取人リリーとの関係を確認させ、それにふさわしい朗読になるように助言
<p>⑤内容について簡単に英語で話す (R, S)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 評価, 助言 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 英文の正確さよりも話そうとする意欲を重視
<p>⑥MEF と指導者の質問に答える (H, S)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 本文の内容について Q & A 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 本文の内容について Q & A
<p>There are 46 letters. ←</p> <p>They are hiragana, katakana and kanji. ←</p>	<p>How many hiragana letters are there?</p> <p>Yes, I do. ←</p> <p>O.K. ←</p> <p>What are Japanese ways of writing?</p>	<p>Do you know kanji?</p> <p>Please write some kanji.</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ 板書 阿… kanji あ… hiragana ア… katakana
<p>⑦英語の文字表記について知る (H, S)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 英語表記について説明 <p>板書 <i>book</i></p> <p>book</p>	
<p>There are 26 letters. ←</p>	<p>How many letters are there in English?</p>	
<p>⑧must の用法を学ぶ (H)</p> <p>must を使って文を作る。 (S→W)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ must を使った文を話す 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ must (平叙文) の用法について説明
<p>⑨まとめ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◦ 絵カードを見せながら must を使った文を作らせる。 ◦ 本時のまとめをする

(7) 評価

ア 手紙文らしい読み方ができたか。

イ 内容を正しく読みとり, MEF の質問に答えることができたか。

ウ must を使った平叙文が作れたか。

(9) 「読むこと」の指導について一考察

MEF とのチーム・ティーチングは, 生徒の英語学習への意欲づけに非常に有効である。

生徒のみならず、教師自身にとっても英語文化を学ぶ絶好のチャンスである。ティーム・ティーチングの研究と共に実践してきた「読むこと」の指導について述べてみたい。

指導段階ごとにいくつかの方法があると思うので順を追って考えていきたい。この中から題材や生徒の実態にあわせて取捨選択して指導している。

1)導入において

- 本文を黙読させる。(個人読み)
- MEFの範読, あらすじを「聞く」ことにより大意を把握させる。この際, MEFが話すスピードをslow→naturalに変えたり, ある単語や文を強調して読むことなどによって重要な点を生徒に印象づけることが可能である。また板書, 絵カードを用いながら聞かせることにより内容把握を容易にすることができる。
- Questions & Answers や, T or F テストを行なうことにより内容把握の程度を確認し, 理解度の低い部分を英語, 日本語で補足していく。この発問と答えは, MEF←→T, MEF←→P, T←→P, P←→Pの間で成立させることができる。
- Lessonによっては, 本文の日本語訳をプリントして生徒に渡してしまうこともある。これは書かれている内容を, 生徒が白紙の状態から積み上げて読みとっていくことを妨げるという欠点があるが, 授業の中で英文→日本語に一文一文訳していく必要がなくなり, 和訳しないことへの生徒の不安を消すことができるし, 生徒の自主学習(予習・復習)に役立つと考える。

2)展開において

- MEF, Tの範読に続き, アクセント, 文の句切り, 音調等に注意しながら音読の練習をさせる。この時フラッシュ・カードを使用して反射的に音読させたり, くり返して指導するのは効果的である。また音読は, 個人読み→斉読→自由読み(T, MEFは机間巡視をして個人的に指導する。)→個人読み(発表, この時T, MEFは発音等の修正, 評価をする。)など多様に行い, また必要に応じた読み方をさせる。

「読むこと」は英語学習の最も基本的事項である。MEFとの授業では英語の雰囲気づくりは容易であり, その中で伸び伸びと楽しく自分の感情を「読むこと」によって表現し, また他の生徒の「読むこと」を聞き, その人の感情を知ることにも指導したい。これらは「話すこと」につながる大切な言語活動である。そしてこの展開時において効果的に学習させたい。

3)整理, まとめにおいて

- 各単元の終わりにある文を話し手の気持ちになって音読させる。これは(T←→MEFの範読を聞かせる)→(P←→MEF)→(P←→P)と対話の相手を変えることができる。
- Questions & Answers やT or Fテストで内容理解の程度を確認する。ここではwh-Questionsやnatural speedに近づけて質問したりと, 導入でのQuestions and Answersと変化をもたせることができる。また(P←→P)のQuestions and

Answers を中心にして、グループ対抗で活動させても変化があってよい。

- 内容を読みとることができたか否かの評価として、段落毎や物語全体にタイトルをつけさせる、内容を英語や日本語で要約させる、英文の要約文を与えその（ ）内にあてはまる語を入れさせるなどができる。これらは「書くこと」につながる。
- 音読をさらに進めた形として暗誦させることがある。これは内容をよく理解させた上で感情を込めて言う練習になる。これは英語を自分のものとして「話す」ことにつながる。また、1. 正確に音読しているか 2. 主人公の気持になって表現できているか 3. 発表の態度、声の大きさは適当か などの評価の観点を事前に示しておいたり、生徒に相互評価させたりして意欲をもたせる。

3. おわりに

過日、MEF と授業の打ち合わせをしている時の事である教材を使って Role playing をしようとした。まず椅子に座り読みあわせをしたその時の事である。日本人教師である自分は発音等気をつけて読むのに真剣であった。しかしMEFの様子をみているはたと思い当たった事がある。

彼女は実に自然にジェスチャーをつけながら読んでいたのである。思わずみつめてしまった自分にむかって、ジェスチャーぬきでは難しくて読めないと言って笑った。

「読むこと」とはそういうことなのだ。文字を音声化することが「読むこと」ではなく英語文化の中に生きているボディ・ラングエッジ等の意味もあわせもった、心にあるものの音声化、動作化なのではないか。

そう考えると、MEF とのチーム・ティーチングであれば一層興味もわくし効果的な授業が展開できる。チーム・ティーチングのチャンスを有効に生かし、今後も「読むこと」の指導を続けていきたい。来校回数が少ないことと、週3回の時数の中で「読むこと」の指導比重をどう どれほど良いかが今後の問題点でもある。

〔参考文献〕

- 「英語授業の改造」 河野守夫著 東京書籍
- 「英語授業の言語活動」 政清武司著 三省堂
- 「言語活動を生かした授業・読むこと」 吉富一編 開隆堂
- 「英語、好きですか」 松香洋子 読売新聞社

評

国際理解の推進という見地から、本市が、MEF事業を始めてから3年が経過します。MEFの授助指導によって、生徒の国際感覚がみがかれてきたのをはじめ、各校における英語教育への役割は、たいへん大きなものであると思います。

今回、西中学校から「読むこと」に視点をあてた授業実践例を紹介していただきました。「読むこと」は「話すこと」の基礎となるものですから、楽しく、感情をこめて読むことの大切さを強張しています。毎日の授業で、留意すべき点を十分に示唆してくれております。「読むこと」の言語活動のための資料選定や、MEFとの事前の打合わせに十分時間をかけて準備されている点なども、各校における今後のMEFの活用の使い方、おおいに参考になるものです。

MEFの導入にあたり、その活用の原則はティーム・ティーチングにあります。ティーム・ティーチングのポイントは、授業において、英語教師の役割とMEFの役割とを明確にし、英語教師の授業に対する考え方をより practical にし、教師の指導力を向上させることにあります。

外国人教師が導入されたとはいえ、英語の授業をリードするのは日本人教師です。授業実施にあたり、指導計画についてMEFと十分 discussion したうえで授業することが、効果的な授業をするために大切です。